

郷うこん修のホットライン

発行：日本共産党豊明市委員会 2021. 2. 7 連絡先：電話・FAX 97-0842

ホームページ：「郷うこん修」で検索 Eメール：qigja681@ybb.ne.jp



一般質問

1 感染症を拡大させないための取り組み 2 燃えるごみの削減について

◆積極的な感染予防策が必要

新型コロナウイルスの第三波が起こり、首都圏で緊急事態が再び宣言されました。豊明市でも感染者が増え続けており、従来型の国民・市民に自粛を求めるだけでは感染の広がりを抑えることができないのは明らかです。無症状や濃厚接触をしていない人にも検査を行って隔離・保護することができるよう予防策を求めました。

◆市民や市職員にPCR検査を

コロナウイルスの感染は特定の場所や集団にでの感染だけでなく、経路が不明の感染者が増えています。名古屋市の栄で飲食店の従業員を対象としたPCR検査が行われましたが、こうした事前の検査を市民に実施して感染を予防すべきではないかと質問しました。市の回答は「PCR検査は抗原検査や抗体検査より精度は高いが偽陰性、疑陽性の問題もある」と市独自の検査を行う考えはありません。世田谷区など、自治体がPCR検査の対象を福祉施設の職員や利用者へ広げる対策を取っている例もあります。引き

続き市の予算でPCR検査をするよう求めます。

◆体温計、備品への後押し検討

市内の公共施設ではクラスター対策として利用者を名簿化しておくことと、体温測定を求めています。一回の催しのために赤外線体温計を購入し、利用者に負担とならないよう文化会館には備品として貸し出すことを提案しました。市からは、「指定管理者が考えているところなので後押しできるかも含めて検討したい」と回答がありました。

(その後、備品化し有料で貸し出しになりました)

☆紙おむつ再利用でごみ削減を

市が目指す燃えるごみの2割削減には従来捨てられていたものの再利用が必要と考え、東京都も実証実験を始めた紙おむつのリサイクルを豊明でも実現してはどうかと提案しました。市は「専用の回収方法や処理費などにコストがかかり、リサイクル施設の設置がまだ不明なことから、国の動向などの情報収集に努めたい」と回答するに留まりました。引き続きごみ減量策を提案してゆきます。

補正予算で家賃補助などを実施

一般会計補正予算が可決成立し、コロナ対策の事業などが推進されます。非正規の方や外国籍の方が新型コロナウイルスの影響で解雇・減収となり家賃にも事欠く事例が多く、9か月を過ぎた分は市の費用で住宅確保給付金が計上されました。本来ならば国が果たすべき役割を市が積極的に負って市民の生活困窮を救うことは評価できます。国にコロナ対策の不十分さを鋭く迫り改善するよう訴えてほしいと求めました。

債務負担行為では唐竹跡地に設置される児童発達支援センターの業務委託費が計上されました。発達障がいをもつ子どもと保護者の支援事業なので市が直接運営してほしいのですが、子どもの食事については既成食を食べやすく細かく切ったりするだけでなく、自園調理ができる設備と調理員を考えていることがわかりました。周辺自治体のセンターが抱える課題を踏まえた良い計画なのでその点は是非実現してほしいです。

休日診療所のシステム改修については、マイナンバーカードを窓口で保険証の代わりに使えるようにするための費用で、市は「市民が自分でカードリーダーを操作することもあり、情報の漏洩の心配はない」としていますが、従来から持ち運ぶことそのものがリスクなのでこの事業については賛成できないと討論しました。補正予算全体としては必要なものと考え賛成しました。

ひとり親家庭に 子育て支援金を給付

最終日に追加議案として補正予算が上程され、ひとり親家庭へ特別給付金を給付する事業が行われました。12月11日時点で国の制度（基本給付）で支給を受けている方か、新たに申請した方が対象です。支給される額は1世帯5万円で、第2子以降は1人につき3万円が加算されます。市はこの事業の目的を子育てと仕事を一人で担い、非正規雇用の割合が高く収入が少ない方を経済的に支援すると位置付けています。急いで年内に振り込んだことは趣旨通りの良い対応で、歓迎されたと思います。

歯と口腔の健康づくり 推進条例が成立

高齢の方の健康維持や認知症を防ぐことに深く関係する「口腔の健康」を推進しようということで、条例案が提案されました。趣旨には賛成ですが、実現のためには歯科健診や歯科医の配置など体制強化が必要なこと、市民にとって健康維持は責務でなく権利という点を指摘して賛成しました。